

# 中野沼の水生物群落

2016-2017 調査報告書(写真版)



アゼスゲ



スジヌマハリイ



アオヒメタデ



ガガブタ



ヘラオモダカ

中野沼は、多々良沼の西にある小さな鼓状に整備された邑楽町の文化財である。2016-2017年に調査し見出した野生植物の特徴を写真で紹介した。水生植物の宝庫であることが分かった。

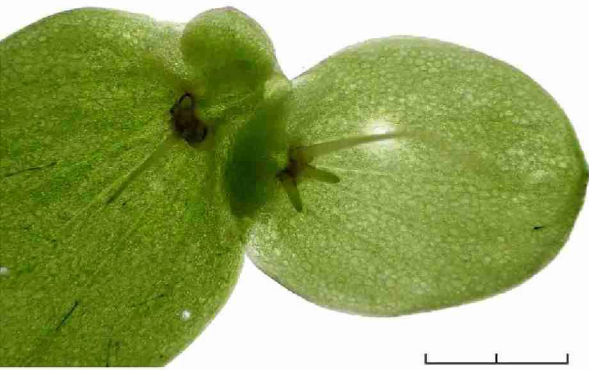




ヤエドクダミ *Houttuynia cordata* f. *plena*

ドクダミ科ドクダミ属 ドクダミの八重品種

分類群としては認められていないが、ドクダミの中にたまに現れる八重咲きの品種で、雄しべが花弁化したものである。ドクダミの白い部分は苞である。



ウキクサ *Spirodela polyrhiza*

ウキクサ科ウキクサ属

水田、水路、湖沼などに普通に生育する小さな多年生の浮遊植物である。田植えの済んだイネの根元にアオウキクサと共に大発生する。

ウキクサには、ウキクサ属 *Spirodela* とアオウキクサ属 *Lemna* 属がある。根の本数で見分けられる。根が2本以上あればウキクサ属、1本ならばアオウキクサ属である。ウキクサは、葉状体の裏面は赤紫色のことが多いが、この個体は緑色である。写真は裏側から撮影したもので、根が3本写っている。その後長く伸びる。



オモダカ *Sagittaria trifolia*

オモダカ科オモダカ属

代表的な水田雑草で、時に水湿地に群生する。中野東沼の西側に少し生育していた。雌雄同株であるが、花穂の上側には雄花、下の方には雌花が付くことが多い。

写真は雄花である。葉の形態には細いタイプのホソバオモダカ *Sagittaria trifolia* f. *longiloba* があるが、独立した分類群ではないとされている。葉や植物体の大きさは生育状態によって大きく違っている。

家紋としても使われている象徴的な植物である。



オモダカ科には、*Alisma* 属、*Caldesia* 属、*Sagittaria* 属の3種があるが、そのうち中野沼ではヘラオモダカ *Alisma canaliculatum*、とこのオモダカの2種が確認されている。多々良沼周辺では、近年ウリカワ *Sagittaria pygmaea* の自生があったが、絶滅してしまった。



ヘラオモダカの花(葯は黄色)

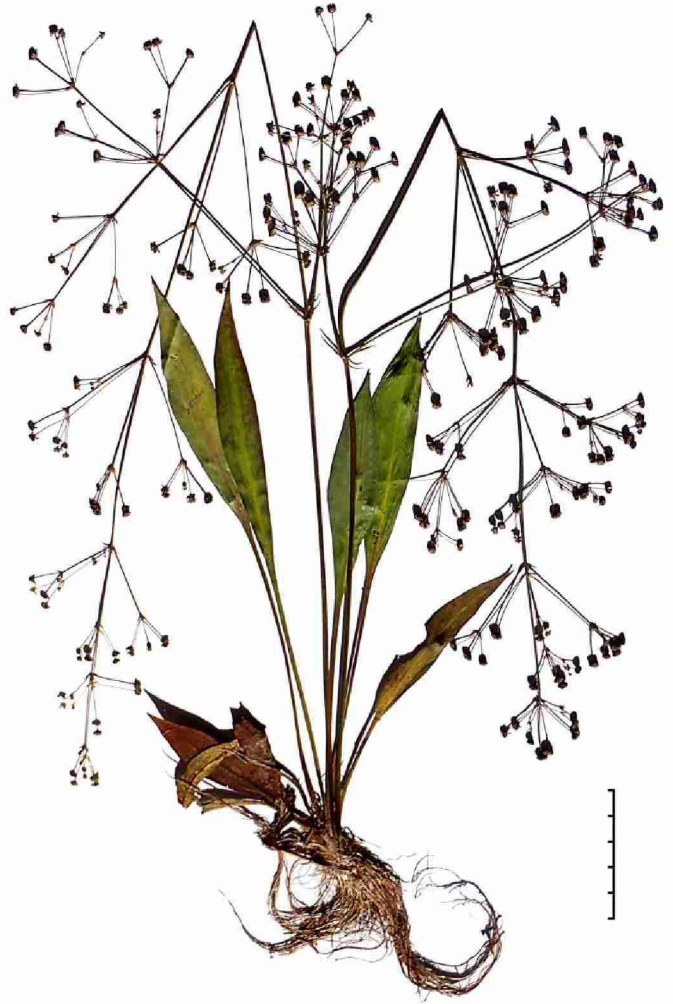


中野東沼に生えるヘラオモダカ



ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum*

オモダカ科オモダカ属 水湿地に生える攪乱依存植物  
これまで邑楽館林では記録がなく**初めての発見**である。  
時々攪乱されるような水湿地に生育するので、見逃されてきたものと考えられる。大きさが多様で、小さいもので数cmから大きいのは1m位になるものもある。



ヘラオモダカの標本 スケールは5cm

キショウブ *Iris pseudacorus*

アヤメ科アヤメ属

**生態系被害防止外来種リスト**(我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト)の中に入っている問題の多い外来種。繁殖力が強く、自生地を席卷し他の自生植物を追い出す。茂林寺湿原では問題になってその対策が急がれている。外部から移入したり植栽することを強く制限する必要がある。中野東沼でも数株のキショウブが確認された。早めの除去が必要である。



ムカゴを付けたノビルの花

ノビル *Allium macrostemon*

ヒガンバナ科ネギ属

春の摘み草として、鱗茎を食用にする。ネギの仲間である。多々良沼公園の縁にはたくさん見られる。花は初夏、うすいピンクがかった花被片を6枚付ける。花序のうち一部が珠芽(むかご)になっている。散形花序が開く前は葱坊主のように総苞に覆われて嘴状である。



イボクサの花と果実

イボクサ *Murdannia keisak*

ツククサ科イボクサ属

水湿地や田の縁、水辺に普通な一年草で、花卉は淡紅色3枚でそのグラデーションが可愛い。雌しべは1本、雄しべは6本で、うち3本は上に突き出ている。葯は淡青紫色で花糸の下には白い毛がある。増水して水没しても枯れずに、葉身の長い水中葉を付け、沈水状態で生育する。結実すると、茎が折れ曲がり下を向く。



ツククサの花 2n=88と思われる。

ツククサ *Commelina communis*

ツククサ科ツククサ属

路傍から水湿地まで至る所に生育する1年草で繁殖力は強い。ツククサを観察していくと中には、両性花と雌しべのない雄花があることがわかる。雄しべに付く葯には花粉を出さないものもある。写真は両性花である。

ツククサの花は一日花で、朝咲いて、お昼過ぎには閉じる。ツククサをもう少し観察していくと、苞に毛のあるタイプ2n=46と無いタイプ2n=88がある。中野沼のツククサは苞に毛の無いタイプであった。

種子は、下のよう黒褐色半楕円形で種子とは思えない様な格好をしている。



ツククサの種子(砂粒のよう)



### イグサ *Juncus decipiens*

イグサ科イグサ属

中野沼にはこのイグサと共に外来種コゴメイの侵入が確認された。幼形の時とは形態がよく似ているため、茎の切片を切って同定しなければならない。日本住宅に欠かせない畳はこの栽培品種である。

コゴメイ *Juncus polyanthemus* はオーストラリア原産で、利根川などの岸辺には群生するようになった。今年度の標本で確認された。今後、沼での生育状況を監視していく必要がある。

### イグサの地下茎



イグサの根茎の節間は短く、赤みがかって光沢がある。地下茎を見ると、この植物の増え方がよく分かる。葉は鞘状になって、茎を包んでいる。



水湿地のイグサ

イグサの茎の断面



コウガイゼキショウの茎葉

### コウガイゼキショウ *Juncus papillosus*

イグサ科イグサ属

中野沼のイグサの仲間には、他にこのコウガイゼキショウがある。疎らなヨシの中に生え、当地方では水湿地に普通にできる植物である。茎葉は多管質(中央上)で、花被片が緑色、雄しべが3本、雌しべの先が羽毛状で3裂している。朔果は外花被片よりやや長く(中央下)、種子は0.6mm位ある(右下、スケールは1mm)。



コウガイゼキショウの茎葉



コウガイゼキショウの種子



コウガイゼキショウの朔果





ウキヤガラの花穂

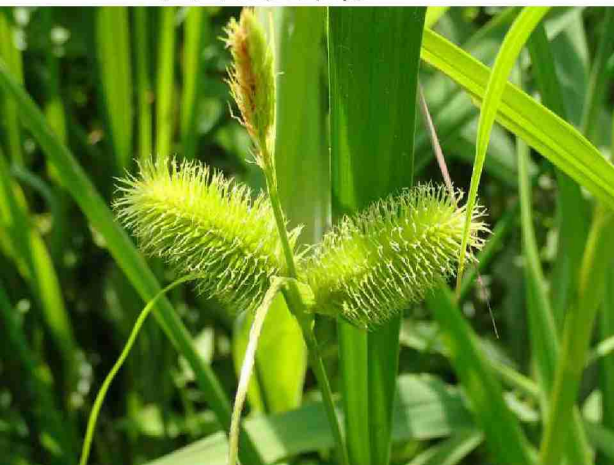


ウキヤガラの瘦果

ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* subsp. *yagara*

カヤツリグサ科科ウキヤガラ属

中野東沼にはマコモ、ヨシ、ヒメガマなど典型的な水辺の植生が見られるが、マコモ、ヨシと一緒に生えるのがウキヤガラで群生する。地下茎の節には球状に膨れた根塊がある。



ジョウロウスゲの花穂



ジョウロウスゲの小穂

ジョウロウスゲ *Carex capricornis*

カヤツリグサ科スゲ属

中野沼に生育する植物として特徴的なのがこのジョウロウスゲである。中野沼の水辺にかなり多く生育している。大きな株を作り、遅くまで葉が枯れないで残っている。葉の幅も広く花穂がなくてもすぐそれと分かる。

**群馬県絶滅危惧Ⅱ類である。**



アゼナルコ *Carex dimorpholepis*  
カヤツリグサ科スゲ属

アゼナルコは、沼の周りに多く群生している。垂れ下がる雌雄性的花穂が特徴で、よく目に付く。



ジュズスゲ *Carex ischnostachya*  
カヤツリグサ科スゲ属

やや湿ったところに生え大きな株になる。鱗片の見えない長く直立した雌花穂と雄花穂が葉の陰に隠れるように見える。大株になるのにあまり目立たないスゲである。株の基部は、赤っぽいのもその特徴である。

スゲ属は、世界中で2,000種あり、日本には269種が知られ、1つの属に含まれる種数としては最も多い(勝山2015)。図鑑に載っていないものも多く、同定には困難を極める。しかし、生物が多様な水湿地の生態から見ればかなり重要な位置を占めており、スゲ属を無視した観察や調査はその場所の本質を見失うことになる。今回の調査で、カヤツリグサ科22種のうち8種がスゲ属であった。



ミコシガヤ *Carex neurocarpa*

カヤツリグサ科スゲ属

雌雄性の特徴的な花穂。中野沼周辺には結構見られる平地に生えるスゲである。

**群馬県準絶滅危惧**

アゼスゲ *Carex thunbergii*

カヤツリグサ科スゲ属

平地から山地の湿地に生えるスゲで頂小穂は雄性、側小穂は雌性でよく結実する。中野東沼の南側の1ヶ所で群生しているのが見られた。しかし、下の右の写真のようにアゼスゲに混じって結実のしない株(別に詳述)もあった。全国にも記載がないので**初めての記録**である。

中野西沼北岸にはわずかながらではあるが、ヌマアゼスゲ *Carex cinerascens* **群馬県絶滅危惧 II 類**も確認出来た。



アゼスゲ群落の中に結実しないものが混じっている。これは、アゼスゲとヌマアゼスゲとの雑種と考えられる。特に名前が無いので、仮称ナカノスゲとした。

オニナルコスゲ *Carex vesicaria*

カヤツリグサ科スゲ属

中野東沼の東側にやや疎らに群生していた。なかった。何か原因がありそうであるが、理由までヨシ、ヒメガマなどの群落の中に叢生している。は今回の調査では解明できなかった。





アイダクグ *Cyperus brevifolius*

var. *brevifoliusii*

カヤツリグサ科カヤツリグサ属

ヒメクグによく似た植物で、左の  
写真のように鱗片の竜骨には小  
刺がある。



アイダクグ 2016/10/21 中野沼

アゼガヤツリ *Cyperus flavidus*

カヤツリグサ科カヤツリグサ属



カワラスガナ *Cyperus sanguinolentus* Vahl

カワラスガナ *Cyperus sanguinolentus*

カヤツリグサ科カヤツリグサ属

中野東沼の南側の背の低い草丈の群落内にやや疎ら  
に群生していた。



タマガヤツリ 2016/9/28

タマガヤツリ *Cyperus difformis*

カヤツリグサ科カヤツリグサ属

水田や休耕田に多い柔らか  
いカヤツリグサ。疎らに見られ  
た。



ヌマガヤツリ *Cyperus glomeratus*

カヤツリグサ科カヤツリグサ属

大型のカヤツリグサで1m以上になる。中野東沼の東側に  
僅かに見られた。写真にはカワラスガナも一緒に写っている。



スジヌマハリイ *Eleocharis equisetiformis*

カヤツリグサ科ハリイ属

中野東沼南と西側に群生。**群馬県絶滅危惧 I A類**





イヌホタルイ 2016/9/28



柱頭 2岐



柱頭 3岐

イヌホタルイ *Schoenoplectiella juncooides*

カヤツリグサ科ホソガタホタルイ属

ホタルイ *Schoenoplectiella hotarui* に似ているが、小穂の中に柱頭が2岐のものと3岐のものが混じる。水田の雑草として目立つ存在である。

タタラカンガレイ *Schoenoplectiella mucronata*

カヤツリグサ科ホソガタホタルイ属

多々良沼原産の植物である。中野沼には多量に生育するが、環境が変わるとすぐに見られなくなる。2016年秋には多量に産出していたが、刈り取りが行われなくなった2017年には激減した。



タタラカンガレイ 2016/9/28



タタラカンガレイの鱗片と瘦果



タタラカンガレイ 2016/9/28



タタラカンガレイ茎の断面

タタラカンガレイの花柱は3岐で脱落しやすい。瘦果の花被片は、ものによく付く。中野東沼の南から東側にかけて多く見られた。**群馬県絶滅危惧 I A類である。**



**サンカクイ** *Schoenoplectus triqueter*  
 カヤツリグサ科フトイ属

地下茎が長く伸びて、水湿地に疎らに群生する。中野東沼の南側に多く自生している。雌性先熟で柱頭は2岐で、茎は3角形である。普通、サンカクイは針状花被片が瘦果と同じ長さ程度で

あるが、中野沼のはやや長い。瘦果がやや細長い。稈の表面がややへこんでいる。等の特徴がある。



サンカクイの茎は三角



フトイ 2016/9/28

**フトイ** *Schoenoplectus tabernaemontani*  
 カヤツリグサ科フトイ属

地下茎が長く伸びて、水湿地に疎らに群生する。かなり水深が深いところでも生育できる。中野東沼の南側から東側に疎らに自生しているが、刈り取りなどの影響を受け、あまり発達出来ないで細いものしか見られなかった。茎は中実で丸い。

【万葉集】

「上毛野伊奈良(かみつけのいなら)の沼の大藺草(おほいぐさ:フトイ)よそに見しよは今こそ勝れ」(巻14-3417)。に歌われ、板倉町では大切にしている。



フトイの茎は円形



**マツカサススキ *Scirpus mitsukurianus***

カヤツリグサ科アブラガヤ属

1.5m以上にもなる背の高いカヤツリグサで、茎は太く緩い3稜形である。ヨシの生育地に混生している。中野西沼の北側、中野東沼北西部に自生している。果実が小さく、針状花被片も長い。

似た種に、コマツカサススキがあるが、鱗片の形態で区別できる。茂林寺沼湿原では、コマツカサススキが見い出されている。写真右にあるように、果実を包む鱗片の形態がコマツカサススキの方が幅広い。マツカサススキは狭被針形である。比較的山地の湿地に多い植物である。

マツカサススキは低地、里山に多く群馬県絶滅危惧 I B 類である。



マツカサススキの鱗片

コマツカサススキの鱗片

**イヌビエ *Echinochloa crus-galli* var. *crus-galli***

イネ科ヒエ属

水田の雑草としてよく知られたイヌビエである。いろいろなタイプがあり、多様な種が含まれる。



**サヤヌカグサ *Leersia sayanuka***

イネ科サヤヌカグサ属

中野東沼の北岸に一部見られた。ややうすき緑色をした繊細な水湿地の植物であるが葉はざらつく。



オオクサキビ *Panicum dichotomiflorum*

イネ科キビ属 2016/10/21採集



中野東沼南に生育していたが、2017年の調査では見られなかった。北アメリカ原産で各地の荒れ地に生育するがあまり多くない。今後の生育動向が注目される。左側は、その標本である。

スケールは30cmの定規

同属のクサキビ *Panicum brevifolium* は水湿地に普通の植物で中野沼にも生育する。



オギ *Miscanthus sacchariflorus*

イネ科ススキ属

ススキ *Miscanthus sinensis* とよく似ているオギであるが、よく間違われる。種としては同じ属なのでよく似ている。中野沼は西から東に向かって地形が傾斜しており、西側が一番高いため、水没する機会が少ない河原のような生態になっておりオギが群生する。総が銀色に輝きススキよりも見栄えがよいが、セイタカアワダチソウとも混生し水生植物の生育地としては課題がある。

コブナグサ *Arthraxon hispidus*

イネ科コブナグサ属

八丈島では、黄八丈の染料に使う。日当たりのよい湿地や湿田の縁、畦に普通に生える植物である。最近では湿田の減少などで、減っている気がする。中野沼のような水湿地に残っていくのであろう。

ケナシチガヤ *Imperata cylindrica* var. *cylindrica*

イネ科チガヤ属

古くは茅花(つばな)とよばれ、万葉集にも詠まれ、若い花穂は甘みがある。至る所に生え群生する。節に毛のあるタイプと無いタイプがあり、水湿地の縁に出るのがこのケナシチガヤである。



開花中のケナシチガヤ



結実・散布中のケナシチガヤ

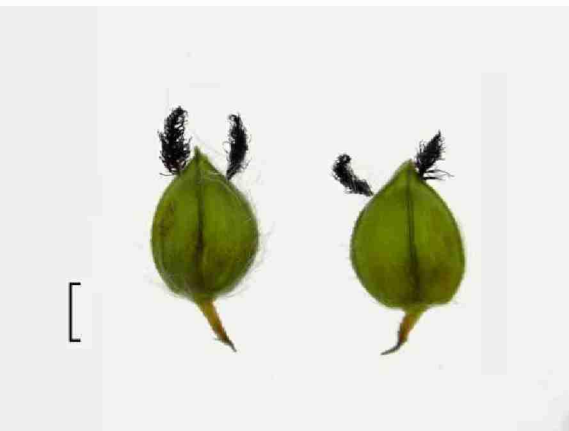


コブナグサ 2016/9/23

タチスズメノヒエ *Paspalum urvillei*

イネ科スズメノヒエ属

中野西沼と東沼を結ぶ水路北側に生育。荒れ地に生育。水生植物ではない。



チクゴスズメノヒエ *Paspalum distichum* L. var.

*indutum*

イネ科スズメノヒエ属

キシウスズメノヒエの変種。葉身に長い毛がある等の特徴で判断した。キシウスズメノヒエと共に水湿地に群生し水辺の植生を変えてしまう程の勢いがある。希少植物の多い中野沼では早めの対策が必要である。



マコモ *Zizania latifolia*

イネ科マコモ属

水辺の最深部に位置する重要な水生植物。中野東沼には、典型的な水生植物群落の構造が見られる。「かつも」とも呼ばれる。



ヨシ *Phragmites australis*

イネ科ヨシ属

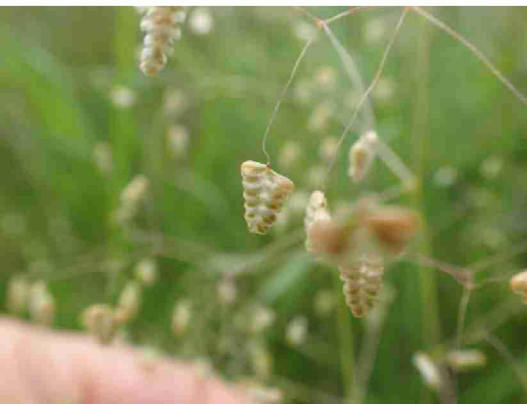
マコモと共に水湿地には欠かせない植物。富栄養の水湿地ではヨシが大きな群落を作る。アシとも呼ばれている。



ヒメコバンソウ *Briza minor*

イネ科コバンソウ属

中野東沼の北岸に僅かに自生していた。ヨーロッパ原産の帰化植物で栽培されていたものが逸出したものと考えられる。小穂は3-4mmで種子から繁殖する1年草。日本には江戸時代からあるという。



ヒメコバンソウの花穂は小さい

開花期を迎えたヨシ



ケキツネノボタン  
*Ranunculus cantoniensis*  
キンポウゲ科キンポウゲ属

中野東沼東に生育していた。湿田や水湿地に普通の植物である。中央部の写真は中野東沼北西部に生育。果実の先が殆ど曲がっていない。

標本の果実  
形態がよく分かる。



コモチマンネングサ *Sedum bulbiferum*

ベンケイソウ科マンネングサ属

低湿地に生えるベンケイソウ科の植物で、近年この仲間にはメキシコマンネングサ *Sedum mexicanum*、ツルマンネングサ *Sedum sarmentosum* など外来種が多い中で特徴的な植物である。葉腋にムカゴを付け主にこのムカゴで繁殖をしている。

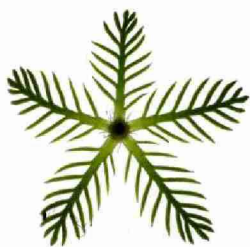
オオフサモ *Myriophyllum aquaticum*

アリノトウグサ科フサモ属

外来生物法の**特定外来生物**に指定されており、栽培や販売、運搬、譲渡などすべて禁止されている。今回の調査で初めてその自生が確認された(2017/6/30)が、すぐにその除去を行った。近くの孫兵衛川には多量のオオフサモが流れてきてゴミフェンスで受け止めて処理しているがなかなか無くならないでいる。多々良沼本体にも一部に侵入が見られる。繁殖力が強く越冬しているようなので、今後も注意が必要である。



分類	行為(対象:特定外来生物)	罰則(懲役または罰金)	
		個人	法人
輸入関係	許可なく輸入した場合	・3年以下 または ・300万円以下	・1億円以下
	許可なく輸入した場合(※未判定外来生物)	・1年以下 もしくは ・100万円以下	・5千万円以下
販売関係	許可を受けていない者に対して販売や配布をした場合	・3年以下 もしくは ・300万円以下	・1億円以下
飼養関係	許可なく飼養等をした場合(販売・配布目的)	・3年以下 もしくは ・300万円以下	・1億円以下
	許可なく飼養等をした場合(愛がん(ペット)等の目的)	・1年以下 もしくは ・100万円以下	・5千万円以下
	偽りや不正をして飼養等の許可を受けた場合	・3年以下 もしくは ・300万円以下	・1億円以下
放出関係	許可なく野外に放ったり・植えたり・まいたりした場合	・3年以下 もしくは ・300万円以下	・1億円以下



オオフサモの輪生葉

外来生物法の正式名称は、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律である。取り扱いによって、上記の罰則が生じる場合がある。

環境省HPより

タコノアシ *Penthorum chinense*

ユキノシタ科タコノアシ属

今回の調査で、特に注目すべき植物の1つにこのタコノアシがある。水湿地に生育する攪乱依存植物で、適度な人や自然との関わりの中で生きている。中野東沼の南と東側に多く生育していた。これだけ多くの株が生育している場所は滅多にない。あっても、河川工事や池沼開発で自生地がどんどん減少している現状にある。

花序は頂きに3から6本に分かれ、そこに雄しべ10本、雌しべが5本の花をたくさん付ける。種子には表面に細かい突起が多数見られ、先端に種枕のような突起もある。

特異な形態をしており、秋には花穂から真っ赤に染まる。

**群馬県絶滅危惧 I B類**



種子には細かい突起が見られる



開花期のタコノアシ2017/8/23





ノブドウ *Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*  
ブドウ科ノブドウ属



ヤブカラシ *Cayratia japonica*  
ウリ科ヤブカラシ属



クサネム *Aeschynomene indica*  
マメ科クサネム属

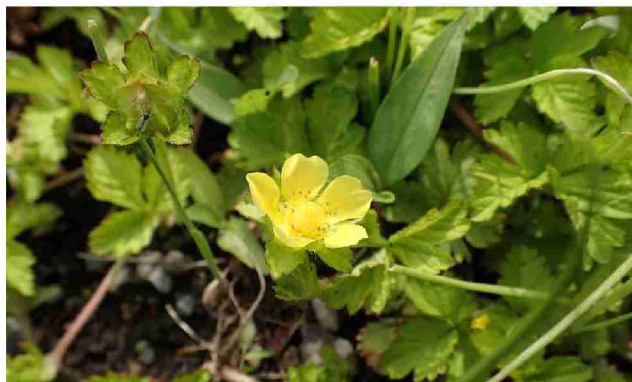


メドハギ *Lespedeza cuneata*  
マメ科ハギ属

○水湿地の周辺には、ややなじみの野草が生育しています。  
○この野生植物の一群もその生態系の一部です。ここには、バラ科、マメ科、ウリ科、ブドウ科、イラクサ科をまとめています。



ヤブツルアズキ *Vigna angularis* var. *nipponensis*  
マメ科ササゲ属



ヘビイチゴ *Duchesnea chrysantha*  
バラ科キジムシロ属



ナガバヤブマオ *Boehmeria sieboldiana*  
イラクサ科カラムシ属

中野沼水路の南側東に生育している。大きな植物である。



山地の水辺に生育するというサワオトギリ。  
中野東沼の東側の一部に釣り人に踏まれるような所に自生していた。

2017/7/16



ヒシ *Trapa japonica*  
ミソハギ科ヒシ属

釣り人によると、ヒシは時々発生するが定着しないようだ。殆ど見られない。2016/9/28

サワオトギリ *Hypericum pseudopetiolatum*  
オトギリソウ科オトギリソウ属



コガマ *Typha orientalis*  
ガマ科ガマ属

ガマには、ガマ、ヒメガマ、コガマなどが知られている。  
コガマは水湿地の比較的水深の浅いところに生育する。水が常に漂う休耕田などもよい生育環境である。最近では、かつてのような休耕田は殆ど見かけないため、減少傾向にある。上部の黄色い部分が雄花穂で、多量の花粉が出る。雄花穂と雌花穂がくっついている。



エゾミソハギ *Lythrum salicaria*  
ミソハギ科ミソハギ属

ミソハギ属

中野沼のミソハギ属はエゾミソハギとミソハギからなる。花期はエゾミソハギが先に咲き、次いでミソハギが花を咲かせる。花の色も形態もよく似ているので、長く咲いている気がする。この属は、雌しべの柱頭の長さで、短花柱花、長花中花、中花中花が知られ、これらが群落の中に混生していないと、受粉・結実できないという。本編では詳しくその様子を述べる。



ヒメガマ *Typha domingensis*  
ガマ科ガマ属

当地方に生育する3種のガマのうち、ヒメガマが一番水深の深いところに生育している。中野東沼では、多々良沼から水を出し入れする南東部～東側の水深部に生育している。雄花穂と雌花穂が離れているので、他のガマ属と区別が付く。



ミソハギ *Lythrum anceps*  
ミソハギ科ミソハギ属



チョウジタデの花



ウスゲチョウジタデの花



チョウジタデの花床



ウスゲチョウジタデの花床

ウスゲチョウジタデ 2016/10/21 (花床の毛が少ない)

チョウジタデ *Ludwigia epilobioides*  
*subsp. epilobioides*

アカバナ科チョウジタデ属

湿田や水湿地に生える1年草で、花は4数性、花弁が4枚、がく片も4枚である。花弁が落ちた後の花床は無毛である。茎など全体に赤っぽいのがこの植物の特徴である。中野東沼北側に多い。



フウセンカズラ  
*Cardiospermum*  
*halicacabum*

ムクロジ科フウセンカズラ属

中野西沼の南側に生育。インドからアフリカ原産。明治初めの導入、栽培したものが逸出したものであろう。

ウスゲチョウジタデ *Ludwigia epilobioides*  
*subsp. greatrexii*

アカバナ科チョウジタデ属

チョウジタデと混生して生育しているが、花が5数性で花弁、雄しべ、がく片も5であるが4枚のも時折見られ区別が困難になる。全体が緑色をしており、花床に毛があるので同属のチョウジタデと区別する。生育地が狭まっていく中で、絶滅が危惧されている。中野東沼にはチョウジタデとともに混生している。チョウジタデと区別が付かない個体も見受けられる。

**群馬県絶滅危惧Ⅱ類**



スカシタゴボウ *Rorippa palustris*

アブラナ科イヌガラシ属

湿性植物ではないので中野沼では決して優占種ではないが、矮性化した個体が、時々出てくる。



アオヒメタデ *Persicaria erectominor* var. *erectominor* f. *viridiflora*

タデ科イヌタデ属

渡良瀬遊水地には、普通に見られる植物であるが、他では殆ど目に付かない。ヒメタデの品種と考えられている。2017/6/7撮影標本もある。小さなタデである。

**群馬県絶滅危惧Ⅱ類**



オオイヌタデ *Persicaria lapathifolia*

タデ科イヌタデ属

水辺に普通の植物で、水際から水深の深いところへも、節に浮き袋を形成し侵出する大型のタデである。



サデクサ *Persicaria maackiana*

タデ科イヌタデ属

中野東沼の南側に群生する刺のあるタデである。

全国の都道府県では、絶滅危惧種に指定されているが当地方では多い方である。花冠が白いタイプはシロバナサデクサ *Persicaria maackiana* f. *albiflora* H.Hara らしいものを見かけることがある。

ヤナギタデ *Persicaria hydropiper*

タデ科イヌタデ属

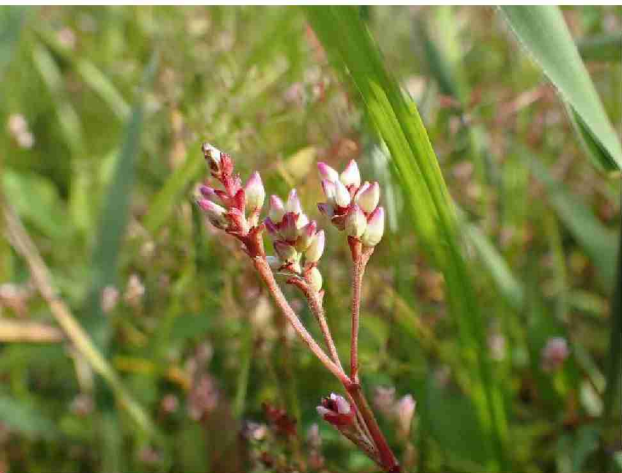
水辺に普通の植物で、水際から水深の深いところへも沈水の状態でも生きられる。ホンタデともいう。葉を噛むと辛い。鮎の塩焼きのタデ酢にこの栽培種を使う。



ヤノネグサ *Persicaria muricata*

タデ科イヌタデ属

葉の形が、ヤジリに似ているのでこの名がある。水湿地には普通であるがそれでも少ない方である。



アレチギシギシ *Rumex conglomeratus*

タデ科ギシギシ属



ギシギシ *Rumex japonicus*

タデ科ギシギシ属



ギシギシは水湿地にも生える植物で、水の浸る様なところに生えるのは大抵これである。

コギシギシは、水没するような所に時々見かける。中野東沼の西側に僅かに見られた。アレチギシギシと同じような小さいギシギシ属の種である。

コギシギシ *Rumex dentatus* L. subsp.

*nipponicus*

タデ科ギシギシ属 **群馬県準絶滅危惧**



ナガバギシギシ *Rumex crispus* L.

タデ科ギシギシ属 ヨーロッパ原産

ギシギシ属の中で一番繁栄している。他の種との雑種も見出されている。侵入すると除去が難しい。



ヒナタイノコヅチ *Achyranthes bidentata* var. *fauriei*  
ヒユ科イノコヅチ属



ヒナタイノコヅチは沼縁に生えるような植物ではないが、中野西沼の南側にあった。中野西沼で釣り人が入るところは、植生が変わっており、このような道端や荒れ地に出る植物が侵入していることが多い。

ホソアオゲイトウ *Amaranthus hybridus*  
ヒユ科ヒユ属 熱帯アメリカ原産



この仲間は中野西沼のセイタカアワダチソウなどと共に生えている。南側の休耕地からの影響があるのだろう。保護地は周りの緩衝地帯がないと完全には護れない。

ムラサキアオゲイトウのタイプ

カワヂシャ *Veronica undulata*  
オオバコ科クワガタソウ属 **群馬県準絶滅危惧**

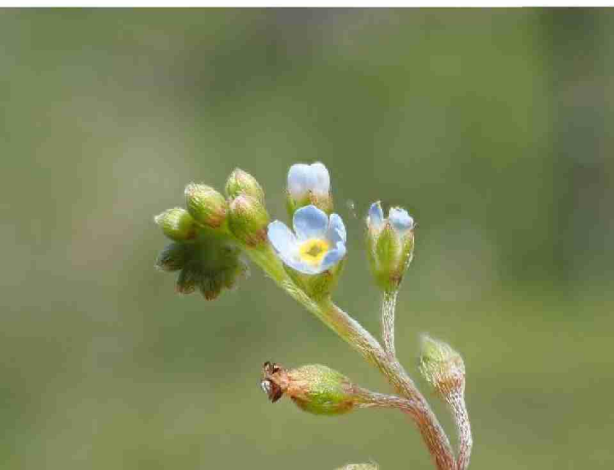


カワヂシャは、ヨーロッパからアジア原産の外来種オオカワヂシャの侵入により激減している。幸い中野沼には侵入していないが、いったん侵入すれば、オオカワヂシャにより沼の景色が変わるであろう。利根河原や太田市を流れる石田川、佐野市を流れ才川などでは普通の植物になって、カワヂシャはよほど探さないと見当たらなくなっている。

タチイヌノフグリ *Veronica arvensis*  
オオバコ科クワガタソウ属



キュウリグサ *Trigonotis peduncularis*  
ムラサキ科キュウリグサ属



ヒルガオ *Calystegia pubescens*  
ヒルガオ科ヒルガオ属 中野沼通路に生育



マメアサガオ *Ipomoea lacunosa*

ヒルガオ科サツマイモ属 北アメリカ原産



時に、マメアサガオに混じて近年近くでホシアサガオ *Ipomoea triloba* もでたが、中野沼では出ていない。

マルバルコウ *Ipomoea coccinea*

ヒルガオ科サツマイモ属 熱帯アメリカ原産



マルバルコウは最近目立って増えてきた気がする。水辺の群落に絡みついて、増えている。

アメリカイヌホオズキ *Solanum ptychanthum*

ナス科ナス属 北アメリカ原産



イヌホオズキ類はたくさんの種類が入っているので分類が難しい。取りあえずアメリカイヌホオズキとした。



コシロネの種子



ヒメジソ *Mosla dianthera*

シソ科イヌコウジュ属

ヒメジソには、ヒメジソとシラゲヒメジソ *Mosla hirta* があるが中野沼では両種とも確認された。

コシロネは、イヌシロネともいわれ、かつて多々良沼西岸でも見たことがある。中野東沼のには南岸に密生している。



コシロネ *Lycopus cavaleriei*

シソ科シロネ属

マルバハッカ *Mentha suaveolens*

シソ科ハッカ属 ヨーロッパ原産



マルバハッカは、湿地にも入り込みやすく群生するので、他の湿性植物を追い出す可能性があるので注意が必要である。

ミゾコウジュは、やや湿った場所には普通に生育する植物で、邑楽館林には広く分布している。ロゼットで冬越しをし、しわのある葉が特徴で分かりやすい。



ミゾコウジュ *Salvia plebeia*

シソ科イヌコウジュ属 群馬県準絶滅危惧

オオジシバリ *Ixeris japonica*  
キク科タカサゴソウ属



オオブタクサが  
中野沼の北の  
休耕田から迫っ  
てきている。大  
型でキク科のこ  
の植物は水辺を  
一気に占領する。  
一刻も早く種子  
の散布を防がな  
ければならない。

オオブタクサ(クワモドキ) *Ambrosia trifida*  
キク科 ブタクサ属 北アメリカ原産



ヤナギハナガサ *Verbena bonariensis*  
クマツヅラ科クマツヅラ属 南アメリカ原産



オグルマは中野  
東沼の東に僅  
かに生育が認  
められた植物で  
ある。  
多々良の休耕  
田にも僅かに  
生育する植物で  
ある。オゼミズギク  
*Inula ciliaris* var.  
*glandulosa* など  
と同属の植物で  
ある。



オグルマ *Inula britannica* subsp. *japonica*  
キク科オグルマ属

アメリカセンダングサ *Bidens frondosa*  
キク科センダングサ属 北アメリカ原産



カントウヨメナは  
中野東沼の南  
の縁に群生して  
いた。環境が適  
しているらしく、  
このように群生  
しているところは  
最近あまりない。

カントウヨメナ *Aster yomena* var. *dentatus*  
キク科ヨメナ属



アメリカタカサブロウ *Eclipta alba*  
キク科タカサブロウ属 北アメリカ原産



キク科はセイタ  
カアワダチソウ、  
アメリカセンダン  
グサ、オオブタ  
クサなど外来種  
が多い。地下茎  
で栄養繁殖をし  
たり、種子の散  
布も旺盛で一気  
にその分布を広  
げる。セイタカア  
ワダチソウは、  
中野西沼の南  
西側にオギと共  
に群落を作っ  
ている。

セイタカアワダチソウ *Solidago altissima*  
キク科アキノキリンソウ属 北アメリカ原産







アサザやガガブタが中野沼に生育していることは過去の資料から見ても当然なことだが、各地で次々にその姿を消している現状を考えると現在もなお、多く自生していること自体不思議なことである。また、中野西沼には、このような水草が育たないのも不思議なことの1つである。

ガガブタについては、このことの手がかりを見つけようと、DNA解析を試みた。詳細は別項で述べる。



セリ *Oenanthe javanica*  
セリ科セリ属



アサザ *Nymphoides peltata*  
ミツガシワ科アサザ属 **群馬県絶滅危惧 I A類**



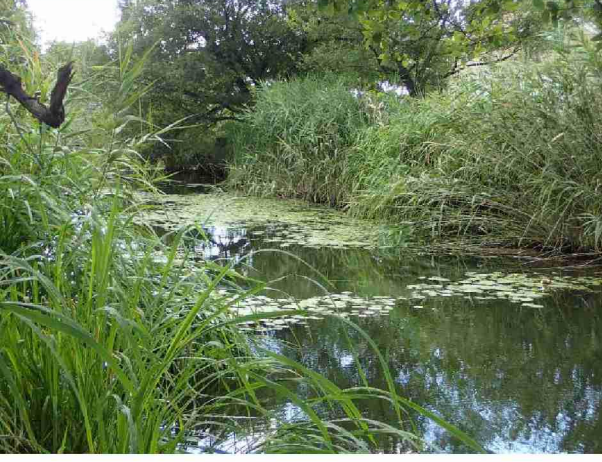
ノチドメの花序



ガガブタ *Nymphoides indica*  
ミツガシワ科アサザ属 **群馬県絶滅危惧 I A類**



ノチドメの果実



ガガブタの生育地 水路



ノチドメ *Hydrocotyle maritima*  
ウコギ科チドメグサ属



中野東沼の様子2016/8/28  
スイレンが水の流れと植生を阻害



2017/10/24 台風24号による増水



中野東沼 水辺の様子と ジャヤナギ  
2016/11/18



中野西沼 オギ群落



中野西沼 セイタカアワダチソウ群落



水路 西から東を臨む  
中野東沼のマコモ、アサザ群落



中野西沼

# 中野沼の植物 写真版(目次) 2016-2017

和名	ページ	和名	ページ
アイダクグ	8	ジョウロウスゲ	6
アオヒメタデ	19	スカシタゴボウ	19
アサザ	24	スジヌマハリイ	8
アゼナルコ	6	セイタカアワダチソウ	23
アメリカイヌホオズキ	22	セリ	24
アメリカセンダングサ	23	タコノアシ	15
アメリカタカサブロウ	23	タタラカンガレイ	9
アレチギシギシ	20	タチイヌノフグリ	21
イグサ	5	タチスズメノヒエ	13
イヌビエ	11	タマガヤツリ	8
イヌホタルイ	9	チクゴスズメノヒエ	13
イボクサ	4	チョウジタデ	18
ウキクサ	2	ツユクサ	4
ウキヤガラ	6	ナカノスゲ	7
ウスゲチョウジタデ	18	ナガバギシギシ	20
エゾミソハギ	17	ナガバヤブマオ	16
オオイヌタデ	19	ヌマガヤツリ	8
オオクサキビ	12	ノチドメ	24
オオジシバリ	23	ノビル	4
オオフサモ	14	ノブドウ	16
オオブタクサ	23	ヒシ	17
オギ	12	ヒナタイノコヅチ	21
オグルマ	23	ヒメガマ	17
オニナルコスゲ	7	ヒメコバンソウ	13
オモダカ	2	ヒメジソ	22
ガガブタ	24	ヒルガオ	21
カワデシャ	21	フウセンカズラ	18
カワラスガナ	8	フトイ	10
カントウヨメナ	23	ヘビイチゴ	16
ギシギシ	20	ヘラオモダカ	3
キショウブ	3	ホソアオゲイトウ	21
キュウリグサ	21	マコモ	13
クサネム	16	マツカサススキ	11
ケキツネノボタン	14	マメアサガオ	22
ケナシチガヤ	12	マルバハッカ	22
コウガイゼキショウ	5	マルバルコウ	22
コガマ	17	ミコシガヤ	7
コギシギシ	20	ミゾコウジュ	22
コシロネ	22	ミソハギ	17
コブナグサ	12	メドハギ	16
コモチマンネングサ	14	ヤエドクダミ	2
サデクサ	19	ヤナギタデ	20
サヤヌカグサ	11	ヤナギハナガサ	23
サワオトギリ	17	ヤノネグサ	20
サンカクイ	10	ヤブカラシ	16
ジュズスゲ	6	ヤブツルアズキ	16
		ヨシ	13

※表紙の写真はアゼスゲ、スジヌマハリイ、アオヒメタデ、ガガブタ、ヘラオモダカ